



発行日 令和6年3月31日  
発行者 東近江市文化スポーツ部  
博物館構想推進課



## 野口謙蔵記念館

アーティスト・イン・レジデンス 2023  
活動記録集



## 野口謙蔵記念館 アーティスト・イン・レジデンスについて

蒲生郡桜川村綺田（現・東近江市綺田町）出身の洋画家・野口謙蔵（1901-1944）は、東京美術大学（現・東京芸術大学）で黒田清輝や和田英作に油彩画を学び、同級生が卒業後フランスへ留学する中帰郷し、生涯を蒲生野の情景を描くことに捧げました。当時、彼の作品は、油彩で日本画的な詩情を表現する新しいものとして高く評価され、没後 80 年近くたつ今も多くの人に愛されています。



謙蔵が昭和 8 年に建てたアトリエを改築復元した野口謙蔵記念館は、これまで作品や資料を展示していましたが、令和 5 年度に施設改修を経てアーティストの活動拠点として生まれ変わりました。その事業のひとつとして、この度第 1 回目となるアーティスト・イン・レジデンスを実施しました。

## 選考について

- 募集期間 令和 5 年 10 月 2 日～11 月 7 日  
 応募総数 10 人  
 地域別 東近江市内：2 人  
 滋賀県内：4 人  
 県外：4 人（京都府、奈良県、愛知県、高知県）  
 審査員 藤井俊治（成安造形大学講師・画家）  
 荒井保洋（滋賀県立美術館主任学芸員）  
 西澤沢美（蒲生地区まちづくり協議会副会長）
- 一次審査(書類) 令和 5 年 11 月 28 日  
 二次審査(対面) 令和 5 年 12 月 6 日



## 作家情報



園田源二郎 Sonoda Genjiro

滋賀生まれ

絵描き・俳人。

クレヨンを用いて作品制作を行う。

ことばと絵のあいだを行きつ戻りつしながら

作品の制作、展示活動を行っている。

### 近年の活動

#### 絵

2023年 個展「かそけきもの」 GYARELLY04 街区

／大阪・中崎町

2023年 黒部ダム60周年記念アート事業参加

／長野・信濃大町

2022年 ロッコミーツアート芸術散歩2022 特別賞

／兵庫・神戸

2020年 東京建物 BRILLIA ART AWARD グランプリ

／東京・八重洲

2019年 宮本三郎デッサン大賞展入賞

／東京・石川

ほか

#### 俳句

2010年 芝不器男俳句新人賞特別賞 ほか

### 滞在期間

令和6年1月15日～3月24日のうち61日



## 制作風景



## リサーチと制作

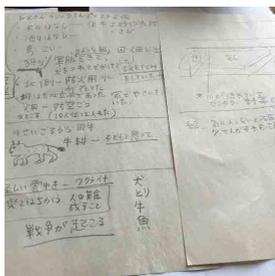
野口謙蔵についての聞き取りや周辺環境の散策を行った。また、制作期間中にアトリエ公開日を設け、公開制作と地域住民らの交流の場を設けた。

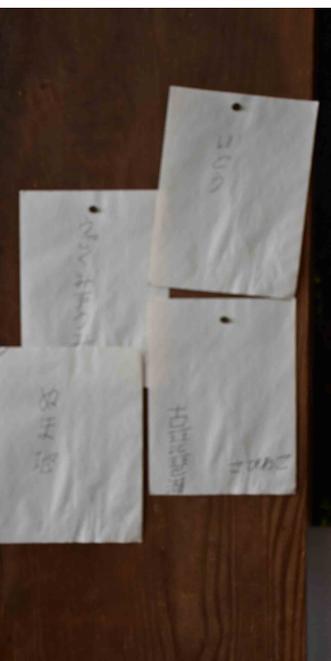
### リサーチ協力

綺田町住民の皆さん、蒲生地区まちづくり協議会、がもう夢工房、がりばん楽校、つどいのひろばえがお、東近江市近江商人博物館

### アトリエ公開日

1月19日(金)、20(土)、26(金)、27(土)、  
2月3日(土)、11(日)、17(土)、18(日)、  
24(土)、25(日)





## ワークショップ

### 「おうみを描いてみよう」

参加者は、1枚のプラスチック板に滋賀（おうみ）の好きな場所や食べ物などをクレヨンやマジックを用いて描き、それを連ねて「おうみのれん」という一つの作品にする。市内のイベントや施設に赴き、子どもから大人までのべ260人が参加した。

- 1回目 2月4日(日)  
旧湖東歴史民俗資料館  
(立春マルシェに出展)
- 2回目 2月10日(土)  
つどいの広場えがお
- 3回目 2月23日(祝)  
能登川コミュニティセンター  
(わくわくこらぼ村に出展)
- 4回目 2月25日(日)  
野口謙蔵記念館
- 5回目 2月26日(月)  
がりばん楽校

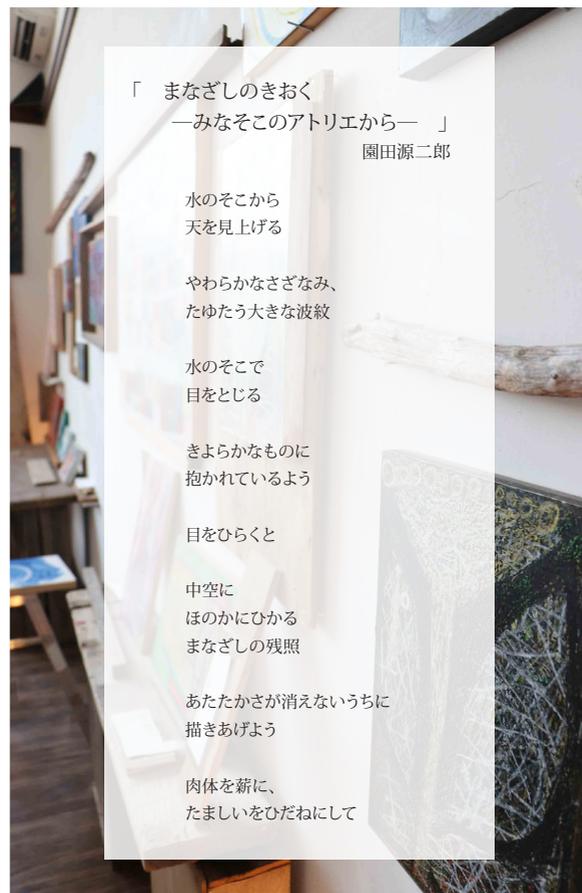


# 滞在制作作品展「まなごしのきおくーハイケイ、ケンゾウサマー」

3月9日(土)～3月24日(日)

記念館で生まれた新作 30 点を含む 73 点が展示された。また、計 5 回のワークショップで集まった作品を連ねた「おうみのれん(近江野漣)」が記念館の窓を彩った。

来場者：353 名



「まなごしのきおく  
—みなそこのアトリエから—」  
園田源二郎

水のそこから  
天を見上げる

やわらかなさざなみ、  
たゆたう大きな波紋

水のそこで  
目をとじる

きよらかなものに  
抱かれているよう

目をひらくと

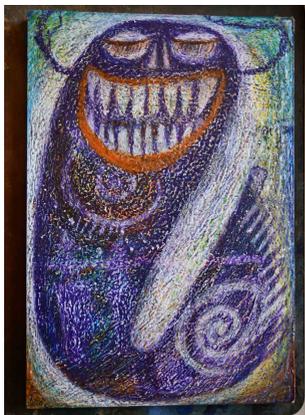
中空に  
ほのかにひかる  
まなごしの残照

あたたかさが消えないうちに  
描きあげよう

肉体を薪に、  
たましいをひだねにして



# 新 作 (一部)



# おうみのれん



「おうみのれん」  
漢字で書くと「近江野漣」  
ここ、蒲生野から何かあざなみがおこりますように。  
という祈りをこめて名付けました。  
新しい地平へ、のれんをくぐって。  
この作品は、主に東近江市内で計5回おこなった  
「おうみを描いてみよう」  
というワークショップにご参加くださった  
みなさんによる作品です。  
お子さんからおとなの方まで、年齢問わず  
多くの方が参加して下さいました。  
それぞれの心の中にあるひとかけらを表現する。  
一枚一枚が唯一無二の作品です。  
みなさんが描いてくださっている姿を  
思い出しながら  
展示作業を行いました。  
どうぞこの機会をきっかけに  
描いたり、つくったり、  
表現することを楽しんでくだされば幸いです。  
一枚一枚、どうぞゆっくりご覧ください。  
園田源二郎



## 滞在制作をふりかえって

### —永遠の炎—

ハイケイ、ケンゾウサマ

アトリエのまどからは、  
石塔の家々と山なみが見えています。  
庭にはスイセンが咲き、  
つくしたちは群舞しているようです。

1月、はじめてこのアトリエで  
描きはじめてとき  
「 もっと、もっと描きたかった 」  
というあなたのつよい思いが  
わたしの肉体とたましいに  
じかに伝わってきたように感じました。

そしてわたしはこれからの日々、  
懸命に描こうと心に決めたのです。

アトリエに通いはじめてから、  
あなたの姿なき姿を探し、  
声なき声に耳を傾けて過ごしていました。

あなたの姿は時に空の色として、  
雲のかたちとして。  
鳥の姿や、草花として。

そしてあなたの声は、  
風の音、雨音、時に雷鳴として  
さまざまな事を伝えて下さった気がしています。

かすかにあらわれては消えるおもかげに  
心身をゆだねながら描けたことは、  
ゆたかな時間でありました。

この時間は多くの方々のよき出会いや、対話の場を  
もたらしてくれるものとなりました。  
絵と真摯に向き合うこと。  
描いている自分を信じること。

あなたからもらった炎を胸に  
これからも描いてゆきたいと思います。  
どうぞ見守っててください。

また、アトリエに描きにきますね。  
その日をたのしみに。

桜がもうすぐ満開の日に

園田源二郎 拝

